

行ってきました、シドニーへ。 —シドニー IAU 総会観戦記—

今年の7月13日から26日の2週間、オーストラリアの大都市シドニーで国際天文学連合 (IAU) の第25回総会が開かれました。IAUの総会というと、6年前に京都で開かれた第23回総会を思い浮かべられる方も多いでしょう。今回は一参加者として、シドニー総会を楽しんできましたので、その一端をご紹介します。

まずIAUとは何かということですが、これは天文学分野での唯一の国際学術団体です。まあ、日本天文学会の全世界版と思っていただければ「当たらずと言えども遠からず」でしょう。その総会は、3年に一回、世界各地で開催されます。2000人規模の参加者を誇る、まさに天文学者のオリンピックと言ってもいいような一大国際会議です。今回も参加者総数は2000人を超え、地理的に近いこともあってか、日本からの参加者は総数146名を数えました。これは、米国、地元オーストラリアについて堂々の第3位です。

総会といっても、メインは付設される6つのIAUシンポジウムです。宇宙論から銀河や中性子星、星形成から太陽までと天文学の各分野を網羅した500人規模の大研究会が3つずつ並行して3~4日間開催されました。詳細はWEBサイト <http://www.astronomy2003.com/> に譲ります。最終プログラムやアブストラクトブックのPDFファイルもダウンロード可能です*。

個人的には、世界第一線の研究者による興味深い研究発表を、自分の好きなところだけハシゴで聞くことができたのは、とても、お得でした。お昼に某氏ご一行と食べた飲茶レストランみたいなもの

で、超新星だ、ガンマ線バーストだと、自分の学習能力をわきまえず、ついつい難しい発表を聞きすぎて、脳の消化不良を起こしてしまった嫌いはありますが……

さて、IAUシンポジウムばかりが見どころ聴きどころというわけではありません。IAU総会では、1日単位のJoint Discussionという小研究会も数多く開かれました。これも詳細は上記のWEBサイトに譲りますが、個人的に深くかかわったJD16(国際天球座標系：維持と将来の実現)について少し述べてみましょう。

このJDがカバーしている分野である位置天文学という、日本では今ひとつという感がありますが、欧米では、2010年前後にSIMやGAIAなど超高精度(マイクロ秒角レベル)の位置天文計測ミッションが打ち上げられるとあって、研究や関連する技術開発が非常に活気づいています。特に、恒星物理学・恒星系力学などに多大な貢献をなしたHIPPARCOSミッションの後継であるGAIAについては、Mignardという雄弁の宣伝マンの活躍もあってか、気宇壮大というか「本当かよ、おい。」と言いたくなるような景気のいい話が、次から次へとまく立てられました。

特に印象に残っているネタとしては「GAIAの観測結果により、一般相対論をこれまでにない高い精度で検証できる」という話がありました。ポスト・ニュートン・パラメータで言えば、ガンマで1億分の5、ベータで1万分の1というとてもない精度です。ホンマかいな、と、つい言いたくもなりますが、発言しているご当人は自信たっぷり。まあ、

*この記事が刊行されるまで、WEB自体はまだ残っているとは思いますが、もし廃止されている場合は、私までお問い合わせください。

9年後が「お楽しみ」です。

研究会で大先生の話をつっぷり堪能というのも一つの楽しみ方ですが、このような大研究会ともなると、あまた掲示されているポスターをじっくり鑑賞できるのも醍醐味です。もちろん、数は多いので玉石混交という感は否めませんが、その道のトシロにもわかるように懇切丁寧（＝教育的？）なポスターで、にわか勉強ができたり、読んでいるうちにポスターを書いている本人自身が気づいていない（と思う）応用を見つけて「しめしめ、これで一商売」とほくそえんだり、プレゼンのど派手さに圧倒されて、内心忸怩たるものを感じたりと、楽しみ方はさまざまです。今回は、途中からポスターの大部分の掲示場所が、併設の展示場（兼コーヒー給仕場）に変更されたため、コーヒーをちびりちびりやりながらポスターの斜め読みをするという芸当も可能でした。でも、コーヒー・ブレイクのときしかお茶を飲めなかったのは、ちょっと不便でしたね。

このほかに今総会で特筆すべきことといえば、無線LANが全面的に利用可能だったことでしょうか？会場となったシドニー・コンベンションセンター全域において、各会場とも無線強度はバッチリで、日本と時差がほとんどないこともあいまって非常に快適でした。誰です、ノートパソコンで内職ばかりしていただろう、なんていうのは……

さて、研究三昧もいいですが、人間、息抜きも必要です。まじめな話は、このぐらにして、少し話の趣を変えましょうか。

今回のシドニー総会の開会式は、あのシドニー・オペラハウスで行われました。首相は外遊中でビデオ出演でしたが、政府科学顧問という人がすごくて、単に演説をただけかと思ったら、途中でパイプ・オルガンのパフォーマンス（曲はIAU総会のために作曲家である息子が作ったオリジナル）も行ったときは、さすがにびっくり。本当に多芸多才な人



会場の外観

はいるもんだ。

総会で出会った世界の旧友や新人、日本でなかなか会えない友達などと飲んだり小旅行したりというのも良いものです。オーストラリアといえば南十字星とワイン？というぐらいですから、星や研究テーマをサカナに、野外やパブで地元のワインやビールをぐびぐび、というのもオツなもんです。時々、気炎を上げすぎて帰りの足が心配になったり、勘定書きを見てびっくりというのもご愛嬌というものでしょう。それにしても、シドニーの物価は高かったなあ。円が弱くなったせいかしらん。

ともあれ、長くて涼しかったシドニー滞在も、あっという間に終わりました。日本に帰ってきて、もう一度振り返ると、頭の先から足のつま先まで天文漬けになった2週間が本当に懐かしく感じられます。あの快感をもう一度、といたいところですが、次の機会まであと3年待たなければなりません。第26回総会は、チェコのプラハで2006年8月に、またその次はブラジルのリオ・デ・ジャネイロで2009年に開催されることが決まっています。さあ、これを読んでいるあなたも、プラハやリオを目指して、今から貯金を始めましょう。

福島登志夫（国立天文台）